

2021年度 第56回 関東中学校バレーボール大会

競技上の確認事項

1. 競技は2021年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則による。
2. 競技日程及び試合方法はプログラム記載のとおりとし、男女32チームによるトーナメント戦とする。試合は3セットマッチとし、3位決定戦は行わない。
3. 開場時刻、試合開始時刻はプログラム記載時刻とする。

第1日目：前の試合が早く終了した場合でも、開場時刻から次の両チームのみが、ネットを使用することなく、コート内で35分間練習することができる。そのあと、10分間ネットを使用した合同練習に入る。11分前からプロトコールに入る。開場時刻、試合設定時刻を過ぎても前の試合が終わっていない場合は、前の試合終了後、コート整備ができ次第、ネットを使用しない練習35分、ネットを使用した合同練習10分間、11分前からプロトコールに入る。練習開始については役員・審判員の指示に従うこと。

第2日目：第1日目と同じ。ただし、第3試合は開始時刻より早く終了した場合でも、早めない。連続するチームは、前の試合終了後から最大15分間空けることができる。その際、対戦チームはネットを使用した練習は不可。また、真ん中に仕切りがない会場ではパス程度。ただし、プロトコールまでに2チームがネットを使用した練習を要求した場合は可とする。

第3日目：準決勝、決勝は男女各1面特設コートで試合を行う。準決勝の各試合は第2日目と同様の進め方で行う。決勝戦も前の試合が開始時刻より早く終了した場合でも、早めない。連続するチームは、前の試合終了後から最大15分間空けることができる。その際、対戦チームはネットを使用した練習は不可。決勝戦に限って、5分間の合同練習後、プロトコールで開始。
4. 準決勝、決勝戦に限り、監督は自チームのアタックラインの延長線からエンドラインまでのフリーゾーンで立ちながら指示を出すことができる。ただし、試合の進行を妨げたり、遅らせたりしてはならない。
5. 公式練習は各3分間とし、合同で行う場合は6分間とする。
6. 大会使用球は、12枚張り人工皮革カラー検定球とする。男子：モルテン 女子：ミカサ
7. 公式練習開始時から、ベンチ及びフロアには登録された監督・コーチ・マネージャー及び選手以外は立ち入ることはできない。ただし、補助生徒5名は隣のコートや遠くにボールが行かないようにボール拾いのみ許可する。また、フロアへの出入りは会場ごとに指定された出入り口を使うこと。

8. 監督・コーチ・マネージャーは所定のマークを左胸部につけること。キャプテンはユニフォームの胸番号の下にキャプテンマークをつけること
9. スタッフは統一された服装でベンチに入ること。マナーについては十分留意すること。ベンチには、部旗・校旗・マスコット・メガホン・うちわ等試合に直接必要でないものは持ち込まないこと。また、フロアが濡れるおそれがあるタオルや飲み物（ペットボトルのまま）等の持ち込みも禁止する。
10. 試合コート及びフロアでのボールの使用は、35分間の練習、合同練習及び公式練習とセット間（フリーゾーン）以外は認めない。ロビー等でのボールの使用も禁止する。その他各会場の使用規定に従うこと。
11. エントリー変更、訂正がある場合は、大会第1日目の受付時に所定の用紙に記入し競技委員に提出すること。これ以降の変更・訂正はいかなる場合も一切認めない。監督・コーチの変更についても同用紙にて変更の手続きを行う。
12. 本大会では、給水のためのタイムアウトが適用される。ただし、うちわの使用は認めない。
13. 表彰は2日目第3試合、3日目各準決勝、決勝戦終了後にコート表彰を行う。
14. 横断幕・のぼりについては以下のとおりとする。
 - ◇横断幕は試合を行っているチームのものを優先し、試合後は必ず撤去すること。
 - ◇会場を汚したり、破損させたりする可能性のあるもの（ガムテープ等）を使用しての横断幕・のぼり等を固定しないこと。
 - ◇横断幕は、プレーに支障が出るような設置はしないこと。役員からの指示があった場合は、その指示に従うこと。
15. 試合中、ベンチでの無線・携帯電話等の通信機器の使用は禁止とする。

「給水のためのタイムアウト」の取り扱いについて

1. 本大会では、各セット（第3セットを含む）において、リードするチームが13点に達したとき、30秒間の「給水のためのタイムアウト」が自動的に適応される。その際、副審が吹笛をし、コートを退くよう促し計時する。ハンドシグナルは示さない。
 2. この「給水のためのタイムアウト」は給水を目的とするものであり、その間、選手はウォームアップエリア（付近）で給水を行う。またチームスタッフはベンチに座っているものとする。（給水を行うか否かの判断は、選手本人の意思による。給水を行わなくても同エリア内にとどまること。控えの選手も同様である。）
 3. 第3セットは、13点でチェンジコートはしないが「給水のためのタイムアウト」となる。
 4. 正規の中断の要求やリベロリプレイスメントよりも「給水のためのタイムアウト」を優先する。正規の中断の要求やリベロリプレイスメントを行う場合は、「給水のためのタイムアウト」の後にその手続きをする。
- ※「給水のためのタイムアウト」は給水及び汗拭きを目的としているので、中断中は次の点に注意すること。

プレーヤー ウォームアップエリアにおいて給水することができる。モップをかけるためにコートに入ることは許されるが、それ以外はウォームアップエリア付近にいることとする。ウォームアップエリアへは最短距離となるコースを通過して移動する。

チームスタッフ ベンチに着席すること。プレーヤーに対して戦術的な指示を出すことはできない。ただし、マネージャーは給水などの補助のため、ウォームアップエリアに行くことは認められるが、監督、コーチからの戦術的な伝言をしてはならない。

※「給水のためのタイムアウト」後、選手がコートインしたら通常のタイムアウトの取り扱いと同様にする。